



社会福祉法人武蔵野

MUSASHINO

ふびれっど

2019
第43号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

わたしらしく

武蔵野でくらす

障害者地域生活支援ステーション

わくわくす

●トビックス

韓国 慶尚南道からの

お客さま

●食を通して地域とつながる

●お店の外へ。地域の中へ。

●たて糸よこ糸

株式会社アートネイチャー

●えずぶれっど

●特別養護老人ホームゆとりえ

●本部事務局

● 本山由美子
塩入 勇

●福々刻々

●地域の中の様々なつながり

／ わたしらしく武蔵野でくらす ／

障害者地域生活支援ステーション

わくらす

3月
OPEN

武蔵野市吉祥寺北町 5-7-5
tel 0422-54-7673
fax 0422-38-5529

→地図
P.8-A



居室全室が個室。ご利用者のプライバシーを守り、それぞれの生活スタイルを尊重します



「わくらす武蔵野」のような施設は、以前「入所施設」と呼ばれていました。入所施設と聞くと、遠方の人里離れた場所での管理的な生活を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。しかし現在は、「住み慣れた町に暮らし続ける」という当たり前の生活を保障するため、都市部にある施設も珍しいものではなくなってきました。

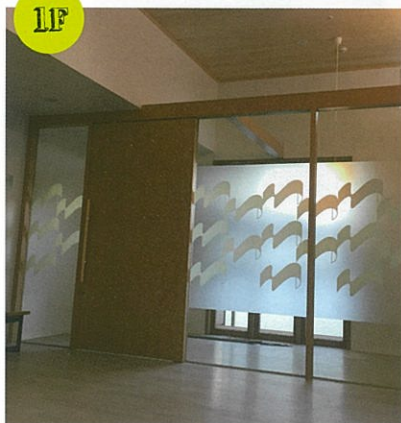
また、入所施設の建物・設備や障害のある人を支援する職員を「社会資源（＝地域のタカラモノ）」として見た場合、そこには単に入所している障害のある人の生活支援だけでなく、より広くより力強く地域社会に役立つ役割を果たせるのではないかと、施設のもつ可能性が注目されるようになりました。

例えば入所している方が生活力を高め、地域のグループホームやサポート付きの自立生活が可能な状態になったら、そこを退所して地域での新たな生活ができるよう、施設が生活体験をサポートし、退所後の地

域生活をフォローしていくことや、施設に24時間365日職員が駐在している機能を活かした緊急時対応等の危機介入、地域の通所型施設やグループホームと連携して地域生活支援のハブや拠点になることなど、新しい役割が期待されています。

このような時代背景の中、武蔵野市でも障害者児の家族会等から親なき後も重度の障害があっても、住み慣れた地域で安心して生活できるように入所施設の設置を求める声が高まり、前計画の「武蔵野市障害者計画・第4期障害福祉計画」に入所施設の市内整備について記載され、推進されてきました。

わくらす武蔵野は、武蔵野市の多大なご助力と地元地域の皆さまのご理解、ご協力のもと産声を上げようとしています。この運営を担う私も社会福祉法人武蔵野は、この幸運と期待を正面から受け止め、使命感を胸に刻もうと、「障害者支援施設」という名をさらに発展させて「障害者地域生



開放感のあるエントランス。大きなガラス窓が特徴的な事務室と相談室があります



地域交流スペース。地域の皆さまの多目的な活動に開放し、地域社会の資源となることを目指します

活支援ステーション」をわくらす武蔵野に冠しました。入所される36名の方はもちろんのこと、地域にお住いの多くの障害のある方が、「わたしらしく武蔵野でくらす」ことを、全力でサポートして参りたいと思います。

さらに、地域の皆さまにとっても、わくらす武蔵野があつてよかったと実感していただけるよう、地域に開かれ、地域に役立つ運営を目指してまいります。皆さま、どうぞよろしくお願いたします。



わくらす武蔵野準備室スタッフ

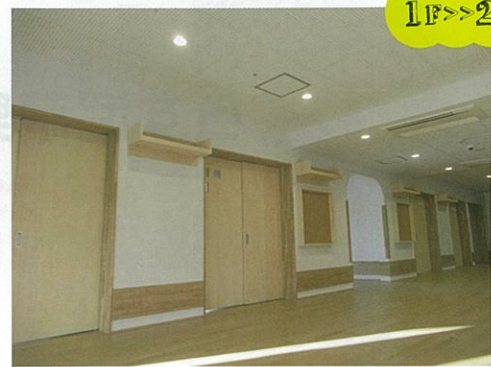


3F

日当たりのよい日中活動スペース。屋上にはソーラーパネルが設置され環境に配慮した設計です

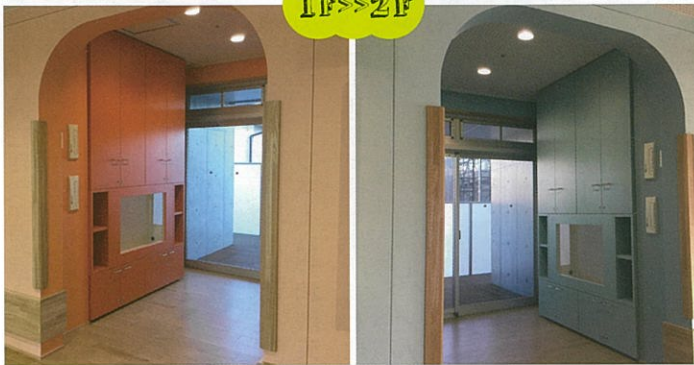


タイムステイ・ショートステイ用の居室。緊急時やレスパイトなどに利用できます



1F>>2F

10名単位の4つのユニットごとにある共用のリビング。他のご入居者や職員とのコミュニケーションを楽しめます



1F>>2F

各ユニットのリビングには、ゆったりと休息ができる小部屋が。クールダウンスペースとしても使えます



B1>>2F

明るく機能的なバスルーム。身体の状態によって使い分け、快適に入浴することができます

「わくらす」施設紹介

わたしらしく
武蔵野でくらす



わくらす武蔵野が目指す 地域生活支援



わくらす武蔵野のロゴマークです。3本の「柱」とそれらをつなぐ「曲線」が描かれています。それらはわくらすの代表的な4つの事業（①入所支援 ②生活介護 ③短期入所 ④相談支援）を現しています。柱は①から③を、曲線は④を現し、これら4つの事業が一体

となって地域にお住いの障害のある人の生活を支えていくことを意味しています。

現在、全国で障害のある人の地域生活拠点等の整備がすすめられています。これは、障害のある人の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、できるだけ住み慣れた地域で生活が続けられるよう、ご利用者や家族を含めた地域の実情に応じて、地域全体で支える仕組みを構築するものです。

わくらす武蔵野は、その拠点として、市内のグループホームや相談支援事業所、日中活動支援事業所等と連携することで相乗効果を発揮し、どんなに障害が重くても可能な限り地域で住み続けることができるまちの実現に努めてまいりたいと思います。

地域生活支援を目指すうえで、わくらす武蔵野の機能、そしてその機能を軸として展開する事業は下記のとおりです。

開所後、当面は入所支援や日中活動といった基盤事業（施設の基本となる事業）を安定させることを第一としますが、徐々に地域生活支援拠点として力を発揮してまいりたいと思います。

（わくらす武蔵野準備室

荒木 大輔）

地域でのくらしのサポート

地域で生活を送るうえでの様々な困りごとに対する相談やサポート

専門的人材の確保・育成

医療的ケアや行動障害等に対応できる、より専門性のある職員の確保・育成

「わくらす武蔵野」の4つの機能

体験の場・緊急時の対応

親元を離れて生活する体験の場。また、諸事情により一時的にご家庭で介護が受け入れられない方へ、短期間、施設での介護サービスを提供

地域の支援体制づくり

様々な団体、専門職等との連携を図り、障害のある人を地域で支える体制を強化する

入所支援

定員40名。わくらす武蔵野で暮らしている方の生活全般をサポート。（うち、4名は体験利用枠）

生活介護

定員50名。わくらす武蔵野を通所で利用されている方の日中活動の支援

「わくらす武蔵野」の4つの事業

相談支援

わくらす武蔵野ご利用者等の福祉サービス利用に関する相談や生活全般の相談

短期入所

定員4名。短期の宿泊利用される方の生活支援



韓国 慶尚南道

からのお客さま

平成30年11月20日に韓国南東部・慶尚南道から31名が当法人へ研修視察にいらっしやいました。「慶尚南道障害者職業リハビリ施設協会」という障害者の就職や職業訓練を支援する施設や法人が加盟する団体の会員の皆さんです。海外研修の一環として日本の福祉事業に学び、職員の専門性向上につなげるため、この視察を企画されたそうです。



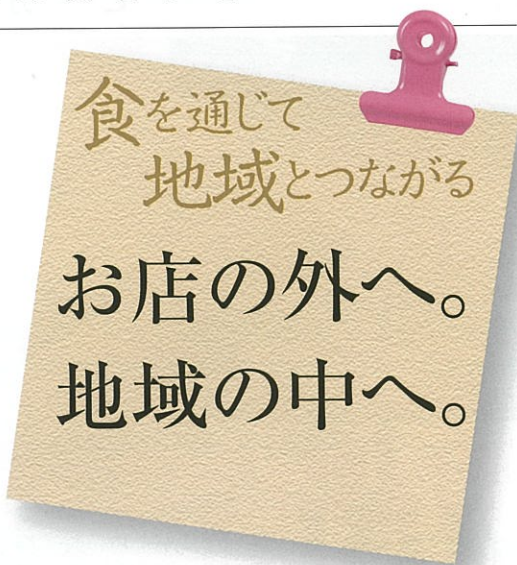
韓国語に堪能なご利用者が韓国語で会話する場面も。貴重な国際交流の機会となりました。

武蔵野障害者総合センターをご案内し、日本の障害者福祉の制度や当法人のサービスについて紹介しました。なかでもワークセンター「パーキの「ブルーケ」

のパンは美味しいと大好評でした。その後、武蔵野福祉作業所のレストラン「七福」で昼食をとりながら、日本と韓国の障害者福祉全般について意見交換。福祉サービス第三者評価や報酬の算定構造などが話題に上がりました。参加者の中には日本に留学し博士号を取った後、韓国に戻り公的な財政支援が得られないなか、自ら法人を立ち上げたという方も。「国の福祉をよりよくしたい」という熱い思いを感じ大いに刺激を受けました。

当法人では、海外からの視察を積極的に受け入れています。今年度は、JICAが提供しているプログラムに参加しているアフリカやアジアの当事者グループや、韓国大邱市からの視察も受け入れました。国は違っても社会福祉の向上を志す者同士共に学び合い、その学びを皆さまに発信してまいります。

(法人本部事務局 石田 真緒)



11月17日(土)三鷹駅前タワーズマンションのふもとで開催されたイベント「タワーズマルシェ@むさしの」に出店しました。タワーズマンションの入居者やその周辺で暮らす方々の「住みよい街にしたい」という想いから始めた地元感たっぷりのお祭りです。やさしい食堂 七福は3回目の参加になります。



職員とご利用者とお客様にチラシを配り、焼き菓子やお惣菜の試食をお勧めしていると、「時々食へに行っているよ」「やー知らなかったわ。どこにあるの?」という様々なお声をいただきます。「先日、子どもが小学校のまち探検(当法人が協力している小学2年生の授業)で福作にお邪魔したんです」という方に見覚えがあったので、「10月のあったかまつりにも来てくださいましたか?」とお尋ねすると「そうです!」と嬉しそうにしてくださり、私もとても温かい気持ちになりました。こうしたやりとりは、店の中(施設内)にいただけでなく、地域へ出ていくからこそのつながりであり、醍醐味だと感じます。これからも一歩外へ……を意識しながら七福を育てていきたいと思えます。

(武蔵野福祉作業所 柴田美季)

たて糸
よこ糸

株式会社
アートネイチャー

よりよい地域づくりを
めざして活動している
団体等を紹介いたします。



散髪は若手スタッフが担当。椅子とケープさえあれば、どこでも美容室に



昔の髪型のことで会話も盛り上がり
ます



気になることがあったときのみ、實方さんが実演して
アドバイス

「今日、初めてですよね? 緊張していませんか?」
膝を折り曲げご利用者と視線を合わせながら、柔
和な笑顔で話しかけるアートネイチャー・技術イ
ンストラクターの「実方法」さん。毛髪製品の製造販
売で業界を牽引し続けているアートネイチャーは、
企業ボランティアとして月2回約3時間、桜堤ケア
ハウスの入居者やデイサービスご利用者に、無料
で「ボランティア散髪」を行っています。カットモデ
ルがほしいニーズと、ご利用者の散髪をしてもらい

たいニーズが
合致して始
まったサービ

「通いなれた施設で定期的に散髪の機会があるのは、
思うように出かけられない方々に好評です。」
若手スタッフの手先を見守りつつ、ときにアドバ
イスも交えながら、實方
さんはなおも続けます。
「若い美容師にとつてこ

スは、今年で20年目になります。

秋の暖かな陽射しが差し込む施設の一角は、即席
の美容室に様変わり。「美女になったわ」と満足げ
な女性のご利用者。職員から、「奥さん、惚れ直すね」
と褒められ、まんざらでもなさそうな男性のご利用
者。

〒151-0053
東京都渋谷区代々木5-58-3
AN第2別館 2F
電話：03-5465-1225
FAX：03-3466-2145

株式会社アートネイチャーは
運営するサロンから都内の複
数の高齢者施設に理美容師を
派遣して、散髪の機会を提供
しています。桜堤ケアハウスの
「ボランティア散髪」は毎月
2回行われています。



やさしい笑顔をとやさない實方さん
(左から2人目)とアートネイチャー
のスタッフの皆さん

で始まったものの、次第に、心境に変化が生まれて
きたといいます。

「いつしか家族を見守るような気持ちになりました。
散髪と会話で明るい気持ちになっていただきたいで
す。利用者の方々は自分の親世代。若手美容師は自
分の子ども世代。成長を期待したいです。」

また、企業ボランティアの意義や今後について、
こども語ります。

「継続の秘訣は、お互いのニーズがマッチし、共に
喜び合えること。ボランティアは必ずよい
経験となって自分に返ってきますから。私
たちの活動を知って社会福祉法人武蔵野に
かかるボランティアがもっと増えたらいい
ですね」

實方さんが主導してきた活動は、世代を
超えた心の通いだけでなく、ご利用者
の暮らしにハリをもたらすもの。今後も、
地域の暮らしを豊かにする企業ボランティ
アとの出会いを大切にしていきたいです。

(聞き手 桜堤ケアハウス 間部 静夏)

えすぷれつと

ちょっとひといき♪ 心がほっと温まるスタッフの日常をお届け♪

最期の一口まで

食べる喜びを

感じてほしい

特別養護老人ホームゆとりえ

本山 由美子

→地図
P.8-B



「私、カレーはもっと辛い方が好きなの」
「わかりました、今度はもっと辛いカレー
を作ってきますね！」

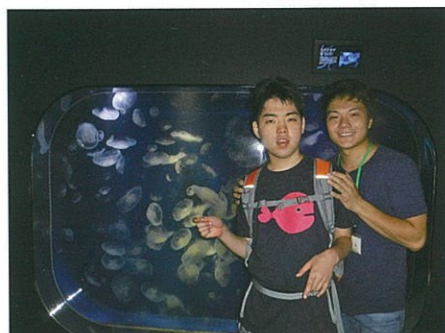
縁あって管理栄養士としてゆとりえに入職した私は、開設当時「お年寄りには食事が一番の楽しみだから、塩分やカロリーなど制限しないで美味しいものを食べさせて」と、周りの人から言われました。その意味を理解する一方で、「お年寄りにも栄養の視点は必要、栄養士だからこそできる仕事を

してご入居者の皆さんに元気で笑顔でいてほしい」と思いました。

開設当初に比べてご入居者の重度化が進み、医療の必要性が増加しました。少量でも栄養価が高く食べやすい、一人ひとりの状態や好みに合った食事が求められています。徐々に食べられなくなるのは仕方のないことです。だからこそ最期の一口までお一人おひとりに食べる喜びと、美味しいという幸福感も味わってほしいと思いつながら日々働いています。

「ごちそうさま。美味しかった」の言葉にこたえるのが栄養士の役目。楽しく、そして、体に優しく、安全な食事を提供することに

よって生活が豊かになるように、これからもご入居者に寄り添いながらその役目を果たしていきたいと思えます。



お魚好きなお利用者
と旅行の記念写真

昨年春に大学を卒業し、新社会人となり10か月、武蔵野障害者総合センターの事務員として、日々たくさんの方のことを学びながら働いています。入社当初からたくさんのお利用者が話しかけてくださり、嬉しかった反面、どのようにコミュニケーションをとればいいのか戸惑うこともありました。そんななか、9月にデイセンター山

ご利用者と

楽しさ、喜びを

共有できる職員

本部事務局

塩入 勇

→地図
P.8-C

がこの宿泊旅行に同行することが決まり、事前に山びこの日中活動に参加し、介助の実習を受けることになりました。実習中、旅行をともにする支援員から「ご利用者それぞれがどのような性格なのか、何が好きなのかを理解することが大切」と教えられ、ご利用者とコミュニケーションをとるヒントを得ることができました。

旅行では、走ることが大好きな方と一緒にかけっこをし、のんびり過ごしたい方とは手を繋ぎながら一緒に話したり、ダチョウのエサやりに一緒に挑戦したりしました。実習時のアドバイスを意識することで、普段の仕事とは違う、人と楽しさを分かち合う喜びを感じることができました。

旅行の後、一緒に旅行したご利用者が「お〜い元気かい？」と話しかけてくださいました。旅行をきっかけにご利用者との距離が少し近づいたと感じます。これからも事務だけでなく、施設の活動にも積極的に関わり、ご利用者と楽しみ、喜びを共有できる職員でありたいと思います。

福々刻々

地域の中の
様々なつながり

法人では地域の方々や団体の皆さまとの関係を広げ、深める活動をしています。秋以降では、障害者総合センターなどでの「むさしのあつたかまつり」（10月20日）を関係団体の力を結集して、また桜堤ケアハウスでは「介護と福祉の地域広場」を開催しました。この他にも地域の様々なイベントにお店を出したり、ワークショップをする機会がずいぶん増えました。日頃からお付き合いさせていただいている福祉の会の一つ、大野田福祉の会では20周年のつどい（11月23日）で多様な取り組みが報告されました。この会の「障がい者部会」は例年2月に《お互いに顔見知りになろう》を合言葉とした交流広場を総合センターで開いています。「びーと」もそのメンバーです。

北町5丁目町会の餅つき行事にも関わらせていただきました（12月9日）。今度開所する「わくらす武蔵野」が同じ町内で、地域の方々からは不安や心配もないわけではないけれども、まずはよい関係を持つとう、と受け止めていただけるようになりなりました。わくらすの支援理念は《地域の中でつながり豊かに自分らしく生きる》です。まずは「

利用者が新たな生活に慣れ親しめるよう全力を尽くしたいと思いますが、さらにはこの場が地域の中で積極的な意味を持てるように努めることが大事だと認識しております。

私どもは1993年に事業を始め、ご利用者のニーズや市の計画に沿う形で事業を拡げてきました。それは同時に地域の皆さまと顔なじみになる年月でもありました。地域の皆さまからお力添えをいただくこともあれば、厳しいご意見をいただくこともありました。改めて御礼申し上げるとともに、今後も努力を重ねて参りたいと思います。

（理事長 安藤 真洋）

ミライズ☆基金

～ご寄附のお願い～

この度、社会福祉法人武蔵野では、事業の継続・充実のために基金を設立いたしました。ご高齢の方の尊厳を守りながら快適に生活していただくこと、重い障害のある方がその人らしく生活していただくことを支援するためには、多くの人手と資金が必要となります。

いただきました寄付につきましては、新たなニーズへの対応・社会貢献・地域貢献など地域福祉の充実、事業活動の持続・充実・発展、施設の新設・修繕等に活用いたします。ぜひご協力をお願いいたします。申し込み方法は下記にお問い合わせいただくか、下記HPをご覧ください。

お問い合わせ先 本部事務局 ミライズ基金担当
電話：0422-54-7666

メール：musashino@fuku-musashino.or.jp
HP：https://fuku-musashino.or.jp/cms/?p=1688

社会福祉法人武蔵野 案内図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、A～Cは本誌に記事を掲載している施設です。



編集後記

新しい年がスタートしました。今年は特集にもありますように、3月には「わくらす武蔵野」がオープンします。住み慣れた武蔵野で「わたしらしくらす」ことができるよう、一層努力していきたいと思ひます。(早川)